



八 剣 山 通 信

第 9 号

八 剣 山 発 見 隊
2003年 3 月 1 7 日 発行

3月16日(日)「雪中山歩きと木工教室」を実施しました。

【行事の概要】

3月も中頃となり厳しい冬も終わりを告げ、春の暖かさを少しずつ感じられるようになってきた今日この頃、八剣山のふもとの果樹園では果樹の剪定(枝切り)作業に追われており、果樹の下には切り落とされた枝がたくさん落ちています。また、八剣山の森の中でも、枯れた枝や冬に積もった雪の重みに耐えきれずに折れた枝を、あちこちで見かけることができます。

今回は、堅く締まった雪に覆われた果樹園や森の中で自然の営みを観察するとともに、木の枝を利用した木工教室を開催します。

はじめに本日のスケジュールなどの簡単な説明を行い、雪中山歩きに出発します。雪に埋もれないように、かんじきを履いて果樹園の中と八剣山のふもとの森の中を歩き、木工に使う折れた枝などの材料を調達します。

この季節の樹木はまだ雪におおわれていて、冬の眠りから目覚めていないように思われますが、日の光を浴び少しずつ木の芽をふくらませ始めています。森の中を、ゆっくり歩きながら樹木の芽を観察したり、樹木の幹に聴診器を当てて木の鼓動を聞いたり、カエデやシラカバの幹に穴をあけてビニールの管を差し込み、甘くておいしい(?)樹液の採取を体験していただきます。

昼食後は八剣山果樹園で、定山溪自然の村の志賀和行さんと稲葉正親さんを講師に、午前中の雪中山歩きで集めた木の枝などを使った木工教室を開催します。

皆さんの自由な発想で、木や枝を使って私たちの身の回りに飾りとして置いたり、利用したりできるすてきな作品を製作してみたいと思います。

主 催：八 剣 山 発 見 隊

【会場の位置図】



【行事の感想】

雪中山歩きについての簡単な説明のあと、足が雪に埋もれないように「かんじき」をつけて、雪深い果樹園や森林の中の樹木を観察するため32名の参加者が雪が時々降りしきる中を歩き回りました。

果樹園では、長い冬を堪え忍んでまもなくふくらもうとしている果樹の芽を観察するとともに、森林の中では樹木の幹に聴診器を当てて、コポッコポツという微かな木の鼓動を聞くことができました。樹液の採集は、前日に採取器を設置した樹木の目覚めがまだではなく、今後の行事で再度実施を検討します。

なお、越冬野菜の最終掘り出しを行いました。土中に保存して3か月半経過したにも関わらず、野菜はみずみずしい状態を保っていました。

午後からは、木の枝やドングリ、松ぼっくりなどを利用した木工教室を開催し、事前に採集してスライスした木片を土台として、かべ飾りや部屋に飾る小さな置物(フクロウの親子、そりをひくトナカイ、フクロウのヤジロベー、森の枝にとまる小鳥)など、様々な作品が出来上がり、皆さんのすばらしい発想に感激していました。



【木の枝を使った作品群】

【今後の行事予定】

- ・ 4月13日 桜の苗木植樹、八剣山すそ野探検
- ・ 27日 豊平川ラフティング体験
- ・ 5月11日 第2回春の小川ファミリーコンサート
- ・ 6月22日 オールディーズ・コンサート
- ・ 7月13日 第2回砥山さくらんぼ祭り
- ・ 10月5日 収穫祭(主催:中小企業家同友会)

発行：八剣山発見隊事務局(八剣山果樹園)
061-2275 札幌市南区砥山126番地
011-596-2280 FAX 011-596-2280

3月16日 雪中山歩きと木工教室



【かんじきを履いて、出発準備】



【サクランボの木の芽の観察】



【木に聴診器を当て鼓動を聴く】



【休憩小屋】



【シラカバの樹液採集】



【3月16日午後の八剣山】



【木工細工の製作風景】



【参加者が製作した作品】